

1月15日～21日は「防災とボランティア週間」
1月17日は「防災とボランティアの日」

地震の急襲に備えて

見直そう

防災対策!!

近年、日本国内で大きな地震が多発しています。昨年中だけでも宮城県沖地震をはじめ、宮城県北部地震、十勝沖地震などが起こっています。今や地震は「忘れたころにやってくる」ものではなく、いつわたしたちの身の回りで起こっても不思議ではないものです。

現に三鷹市を含む南関東地域では直下地震が発生の切迫性が指摘されています。しかしながら、いつ起きるにしても、わたしたちはあらかじめ地震に備え、かけがえのないわが身と家族の生命を守らなければなりません。

「大地震発生!」、そのときあなたはどのような行動をとりますか? あなたの家庭、職場などで地震が発生したときのことを想像してみてください。

1月17日は「阪神・淡路大震災」の起こった日です。このときの教訓や震災の恐ろしさを忘れないために「防災とボランティアの日」(1月17日)と「防災とボランティア週間」(1月15日～21日)が定められています。この機会に、突然襲いかかる地震に立ち向かい、わが身と家族の命を守ることができるように、今一度、防災対策を見直してみてください。大地震が起こってからでは遅いのです。

↓防災課6内線2つ033

地震列島

日本はよく「地震列島」であるといわれます。事実非常に多くの地震が発生しており、人が感じる地震だけでも全国で年平均約1千300回程度あります。また、過

去には甚大な被害をもたらす大地震にたびたび見舞われるなど、世界的にみても地震発生割合が非常に高い国なのです。最近では、1703年の元禄地震、1923年の関東大震災がその例です。

地震に見舞われる運命

元禄地震後、最初の70年ほどは静穏な状態でしたが、その後は、天明小田原地震や安政江戸地震をはじめとする大

地域団結で

災害に備える

「自主防災組織」

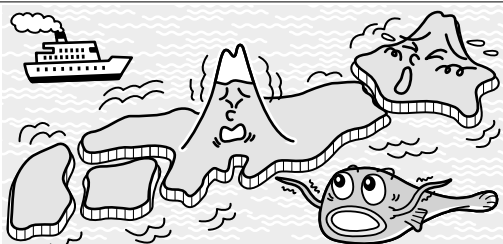
過去の大地震の教訓として、明らかになったことがあります。それは、同時多発的な火災の発生などの地震被害が大きければ大きいほど、行政機関の活動には

三鷹市では、「コミュニティセンターを中心とした地域住民のみなさんによって7つの自主防災組織(別表)が結成されています。各自主防災組織は「自分たちのまちは自分たちで守る」を合言葉にそれぞれ防災事業を推進し、市民が安心して住めるまちづくりを目指しています。

この自主防災組織の主な活動内容は、三鷹市総合防災訓練をはじめ、救急救命訓練、可搬式ポンプ運用訓練、立川防災館などを利用した防災体験研修など、防

各地区の自主防災組織

地区	所在地	電話
大沢地域防災対策本部(大沢CC内)	大沢4-25-30	32-6986
三鷹市東部住区防災連合会(牟礼CC内)	牟礼7-6-25	49-3441
三鷹市西部住区住民協議会(井口CC内)	井口1-13-32	32-7141
三鷹市井の頭地区住民協議会(井の頭CC内)	井の頭2-32-30	44-7321
新川中原地区災害対策連合会(新川中原CC内)	新川1-11-1	49-6568
連雀地区住民協議会(連雀CC内)	下連雀7-15-4	45-5100
駅前地区自主防災連合会(駅前CC内)	下連雀3-13-10	71-0025



三鷹市で想定される震度6弱の被害状況と現象

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない重い家具の多くが移動・転倒する。
- 開かなくなるドアが多い。
- かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。
- 耐震性の低い住宅では、倒壊するものがある。
- 耐震性の低いコンクリート建物では、壁や柱が破壊するものがある。

直下地震被害想定に基づく三鷹市の主な被害状況

冬の平日午後6時、晴れ、風速6m/秒の状況下、区部直下の地下20km～30kmを震源とする、M7.2の大きさの地震が発生した場合	
建築物倒壊数(倒壊率)	全半壊1,243棟(3.6%)
焼失面積(焼失率)	3.81km ² (23.1%)
焼失棟数(焼失率)	11,671棟(33.4%)
死傷者	死者:71名 重傷者:224名 軽傷者:1,349名

沈黙が意味するものは?!

このところ、日本国内では大きな地震が多発しています。が、南関東地域では、1923年の関東大震災以降80年間、大きな地震には見舞われていません。

しかし、これは80年もの期間、地震を発生させるエネルギーを蓄積してきたことを意味することから、国の中央防災会議でも「南関東地域直下の地震の発生は、ある程度の切迫性を有している」と指摘しているのです。

つまり、今後たとえ平穏に過ぎることができたとしても、一方で大地震発生のカウントダウンがすでに始まっていることを忘れてはいけません。

地震はある日突然!

直下地震がいつ、どこで、どのくらいの規模で発生するのか、現在のところ予知する

自分の命は自分で守る!!

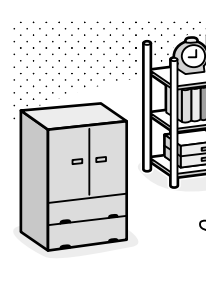
わたしたちは大地震の発生を止めることはできませんが、事前の心構え、備えをすることはできます。

地震対策という点、飲料水の確保やラジオ、懐中電灯などの備えをすぐに連想しがちです。確かに備蓄品を揃えておくことは重要です。しかし、最も大切なことは、まず発生直後に命を落とさないで生き延びなければ何もうるまいという事です。

魔の10秒間!!

今から9年前、阪神・淡路大震災が早朝に都市を急襲しました。この大地震の最も衝撃的な面は、たった10秒程度の強烈な揺れによって近代的な都市が壊滅的な被害を被り、多くの家屋が全半壊し、その家屋・家具の下敷きになっておびただしい死者がでたことです。

人が立つていられない程の激しい揺れの10秒間にあなたは、どう行動しますか?



～防災ひとくちメモ～ 忘れて171(イナイ)!? 災害用伝言ダイヤル「171」

災害時、家族が離れ離れになってしまったら、「災害用伝言ダイヤル」が役立ちます。

災害用伝言ダイヤルの使用方法

伝言を吹き込むには **171** ⇒ **1** ⇒ 被災地の自宅の電話番号 ⇒ 伝言を入れる
(××××) ××-××××
ガイダンスが流れます
伝言を聞くには **171** ⇒ **2** ⇒ 被災地の自宅の電話番号 ⇒ 伝言を聞く



「災害用伝言ダイヤル」は、大規模な災害が発生した際に、被災地域内やそのほかの地域の方々の「声の伝言板」の役割を果たすシステムです(災害時のみNTTが提供)。

あなたがもしケガなどをすれば、周囲の人の救出救助を行うどころか、多くの人の手によって救出してもらわなければならないのです。

まずは家内安全

特に住まいの中では、最も危険なのが家具の転倒、電化製品など重量物の落下、ガラスの飛散です。大地震が必ずくるといふことと心構えのもとに次のようなことを確認してください。

- 背の高い家具、冷蔵庫には転倒防止対策をする。
- 棚には、軽いものを上段に、重いものは下段に置くようにする。
- 食器棚などのガラス戸には飛散防止フィルムを貼る。
- 寝室には、倒れやすい家具を置かない。
- 寝室には厚手のカーテンをつけ、就寝時には閉めるようにする(ガラス飛散防止)。

ふだんのちよつとした心掛けが、大地震発生時にみなさんや家族の生命を守ることになるのです。今からでも間に合います。地震への備えを見直してください。